

平成23年7月28日

氷見市総合計画審議会  
会長 石出宗秀様

人づくり部会長 屋敷夕貴

氷見市総合計画審議会人づくり部会の意見等について（報告）

5月9日の本部会における審議結果を、下記のとおり報告いたします。

## 記

### 1 子育てについて

- (1) 未婚・晩婚化対策として、行政や民間で出会いの場の創出に取り組んでいますが、作られた場ということもあり効果がほとんど出ていません。そのため、ひみまつり等の既存のイベントにおいて若い男女が来て集まる場を作る施策の実施を望みます。
- (2) 市内各所に「〇〇の景色を一緒に見た男女は幸せになれる」といった、ストーリーや仕掛けをすることで、若い人は自然と集まるものと考えます。そのため、効果が無い出会いの場をつくることにお金をかけるよりも、魅力的な男女の出会いのストーリーを提供する施策の実施を望みます。
- (3) 出会いの場を創出するためのイベントを実施しても、少子化・晩婚化を表に出したものではありません。少子化・晩婚化対策が必要な人だけでなく、その周りの方にも理解・共有してもらえよう施策の実施を望みます。
- (4) 今の子どもたちは忙しすぎます。地域の人たちとのふれあい等を増やすため、もう少しスポーツと地域活動とのバランスがとれるようにしていただきたいと考えます。
- (5) 本来、子どもは集団の中で遊ぶことで喧嘩や仲直りをしながら成長していくものですが、今の子どもたちはそれを忘れているようです。コミュニケーション能力等を養う機会を大人がいろんなことをしすぎて奪ってしまっているため、集団の中で子どもたちの能力を伸ばす取組みの実施を求めます。
- (6) 祖父母世代は子育てに無関心なのではなく、嫁姑の軋轢等があって経験やパワーを使う機会を奪われているものと考えます。例えば、生活様式、同居の形

態をガラッと変えるという発想を取り入れるなど、祖父母世代の子育てへの関わりを促進する取組みも大切であると考えます。

## 2 教育（子どもの健全育成）について

- (1) 学校の耐震化について、どの程度進んでいるのか伝わってこないので、広報等で、毎年の耐震化の状況や計画の進み具合の報告を望みます。
- (2) 親を学び伝える学習プログラムは、小一プロブレム、中一ギャップを解消することに対しては有効な手段です。PTAでも今年10名の家庭教育アドバイザーを養成する予定ですので、学校において活用するよう求めます。
- (3) 氷見市の家庭の教育力の低下の主な原因はテレビを見たりゲームをしたりする時間が県内で一番長いことにあります。テレビなどを子どもが我慢し、親もそれに付き合い空いている時間を自由に使うという「親子ふれあいプロジェクト」のようなPTAと各学校が協力した取組みも実施されているので、市にはこれをもっと取り上げてサポートしていくよう求めます。
- (4) 学校の統廃合については、統合後のわだかまりの解消等、アフターフォローが重要です。各地区で中学校と小学校が連携する、中規模一貫校化の検討を望みます。
- (5) 氷見市全体で市のまちづくりを考えるためには、氷見高校の生徒たちをどうやって氷見市を発展させるリーダーにしていくかが重要です。市唯一の高等教育機関である氷見高校のあり方を中高一体で考えていく必要があります。
- (6) 農業や水産の後継者を育てる上で氷見高校はとても大切です。氷見は地産地産で食べていけるといいうすばらしい地域であるので、その良さを子どものうちから教育の中で伝えていく必要があります。

## 3 文化・スポーツについて

- (1) 様々な施設が老朽化してきているので、見切りをしっかりと対応を望みます。また、ふれあいスポーツセンターを中心としたスポーツゾーンを作る等、スポーツを通して健康であることの幸せを実感できるまちづくりを進めていく必要があります。

## 4 部会の所管事項全体について

- (1) 市が行っている取組みについて、一般市民には良く知られていません。そのため、市の施策のPRを充実させていく必要があります。また、一般市民の方でも良い提案をされる方がおられるので、それをできるだけ多く今後の計画策定作業において取り上げていくよう求めます。
- (2) ふるさと教育や食育は子どもの健全育成のためだけではなく、大人についても非常に重要であり、また文化面にも関わってくる事項です。計画策定においては施策横断的に考える必要があります。